

第111回(平成21年秋季)東京大学公開講座

悪水をめぐる紛争

—日本史にみる「水の捨て方」—

法学政治学研究科・新田一郎

‡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。



能多義抄所
備

明治十一年九月十日
新主筆

共有八種暴閔之訴

埼玉縣第拾九區武勝國足立郡別所和
外七村總代人別所和村富和長石川
新左門井田縣同區同村廣家初上
野寺村和副長新井村廣代言人
同縣第貳十區正旦三井浦和野
八十六番地半段
原告代言人 渡辺知彦

昭和二十五年七月四日

紅色

三十一

裁判言渡書

埼玉縣中十九區武蔵國足
多那別所村外七ヶ村復代
人別所村移廟村戸長

石川新太郎

埼玉縣中十九區武蔵國足
多那別所村戸長
多那領家村戸野井鄉村副
戸長

新井 伸造

代表人

埼玉縣中十九區武蔵國足
多那別所村戸長

原告

渡辺 知孝

埼玉縣中十九區武蔵國足
多那別所村副戸長

被告

石川伊太郎

代理人

同

小林 吉兵衛

共有以施暴開張江邊等処
原告ハ被告等米田地内字渡辺以施暴ハ以知
四年辛未五月旧浦和縣ハ指咄シタル被告
ハ寫テ於テ元來原告九ヶ村ハ共有以施暴ナ
レハ被告一村ハ於テ之レヲ進退レ之レヲ
開闢スルノ權ヲキハ勿論ナシ、原告ヘハ

十一

二十

原告
西長心得
主任判事西鴻訥

裁判言渡按

埼玉縣第九區武藏国足立郡別所
村外七ヶ村係代人右別所指扇西村
戸長石川新左工門外一名代言人
東京府麹町區四番町一番地寄留長
野縣平民

原告
皆川四郎

埼玉縣第九區武藏国足立郡寶永
村係代人

東京上等裁判所

被告
日村副戸長
石井新左衛門

被告
日村係代人
小林吉兵衛

共有以樋暴閉督責ノ詞訟熊谷裁判所浦和支廳ノ裁判不
服ノ控訴審理左ノ如シ

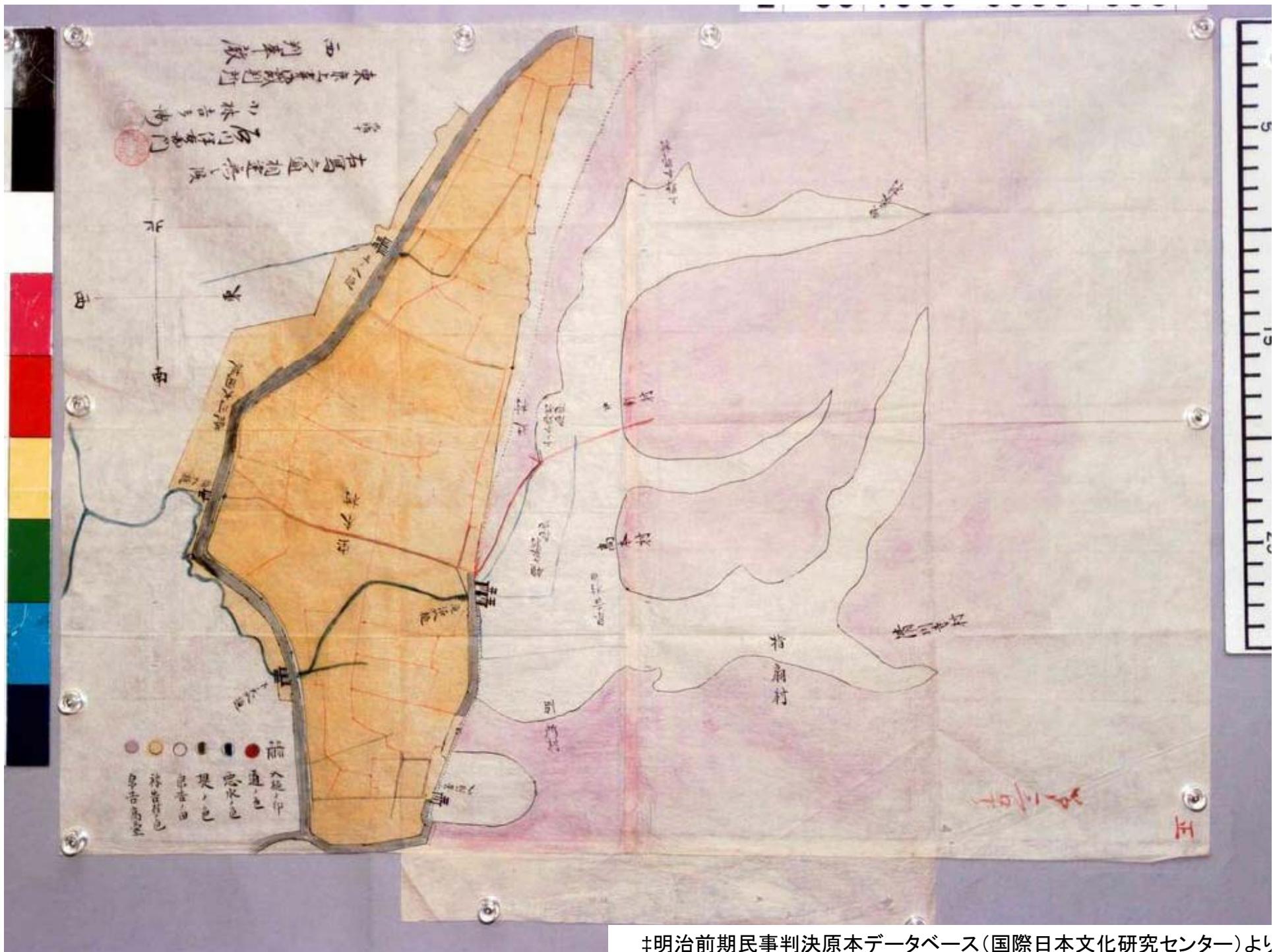
第一條

被告ニ於テ明治四年五月原告村々々々樋沼ハ樋組合トシ
高割出金ノ上修繕ヲ加工可キ旨旧浦和縣廳ヨリ説諭之
際被告村々於テ従前ノ如ク該樋閉閉右縣廳ヨリ申聞ノ
趣ニ隨ヒ旧慣ノ通り被告村ニテ開閉致未レトモ原告村
々更ニ苦情申之今般ニ限リ暴閉杯上訴ナシタル旨申立ル
ト至氏浦和縣廳申聞及原告村々更ニ苦情申之トハ其証

二六七
廿四

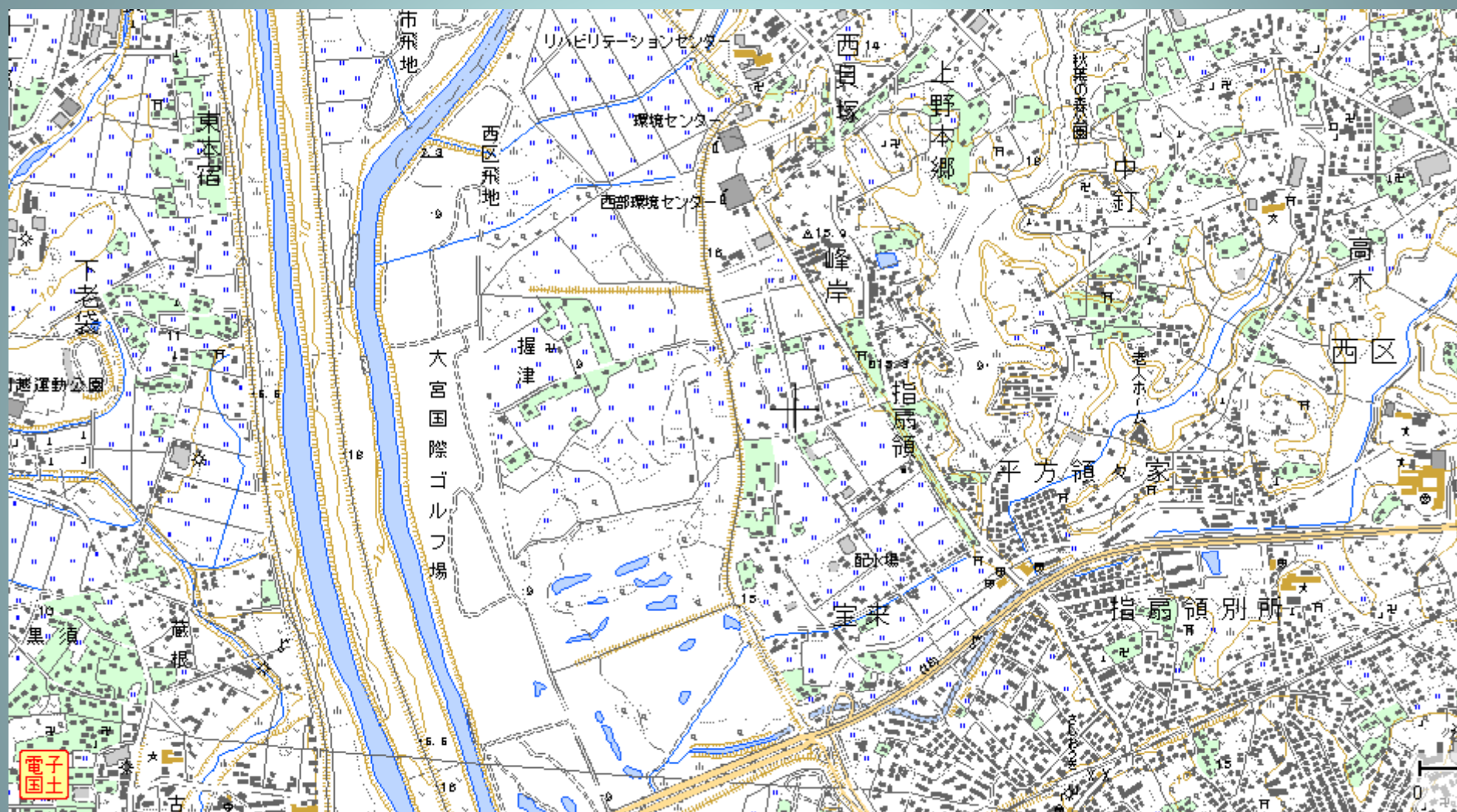
紅色

22-3





Yahoo!地図より



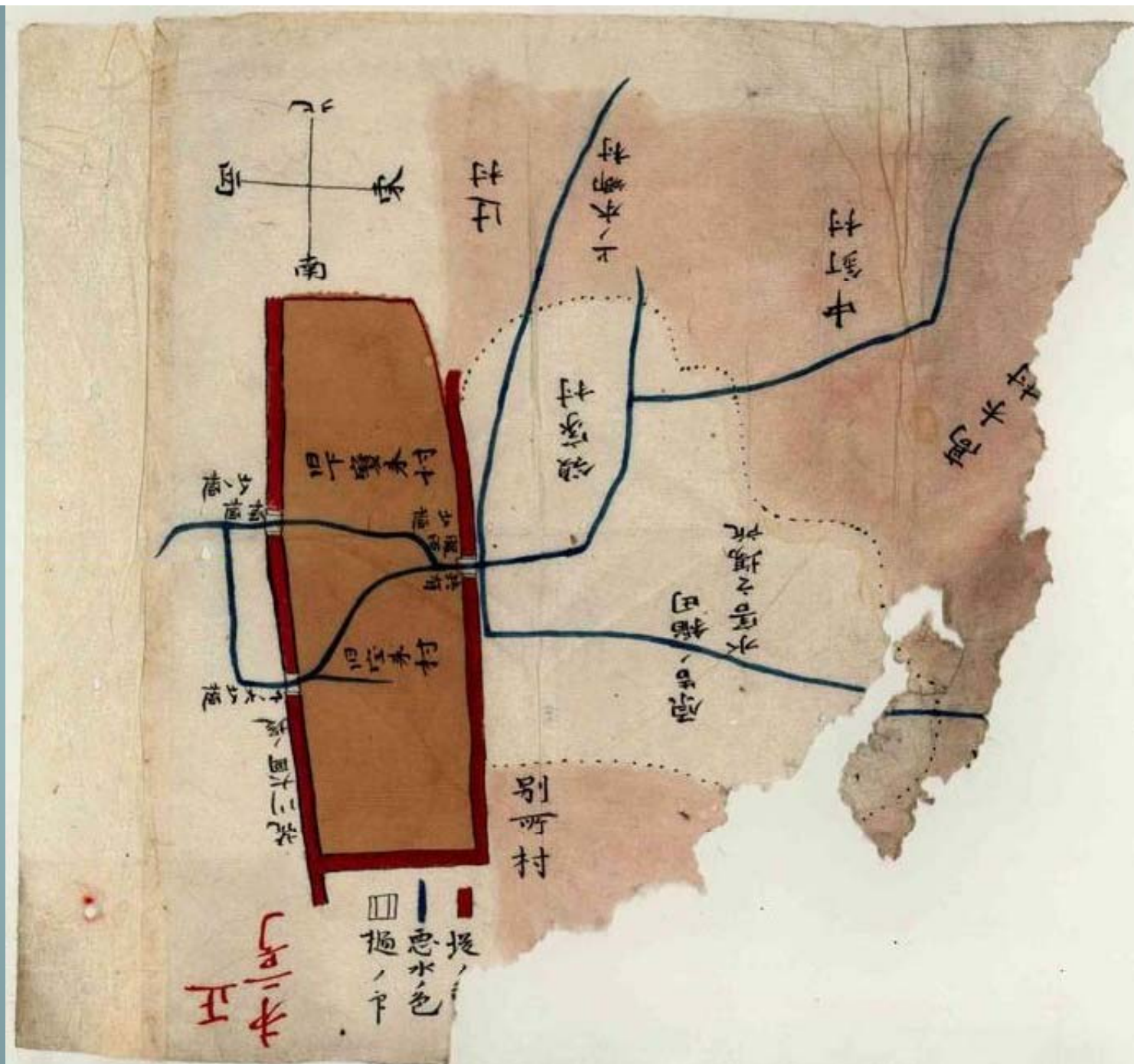
電子国土(国土地理院)より「上尾」



Google Earthより

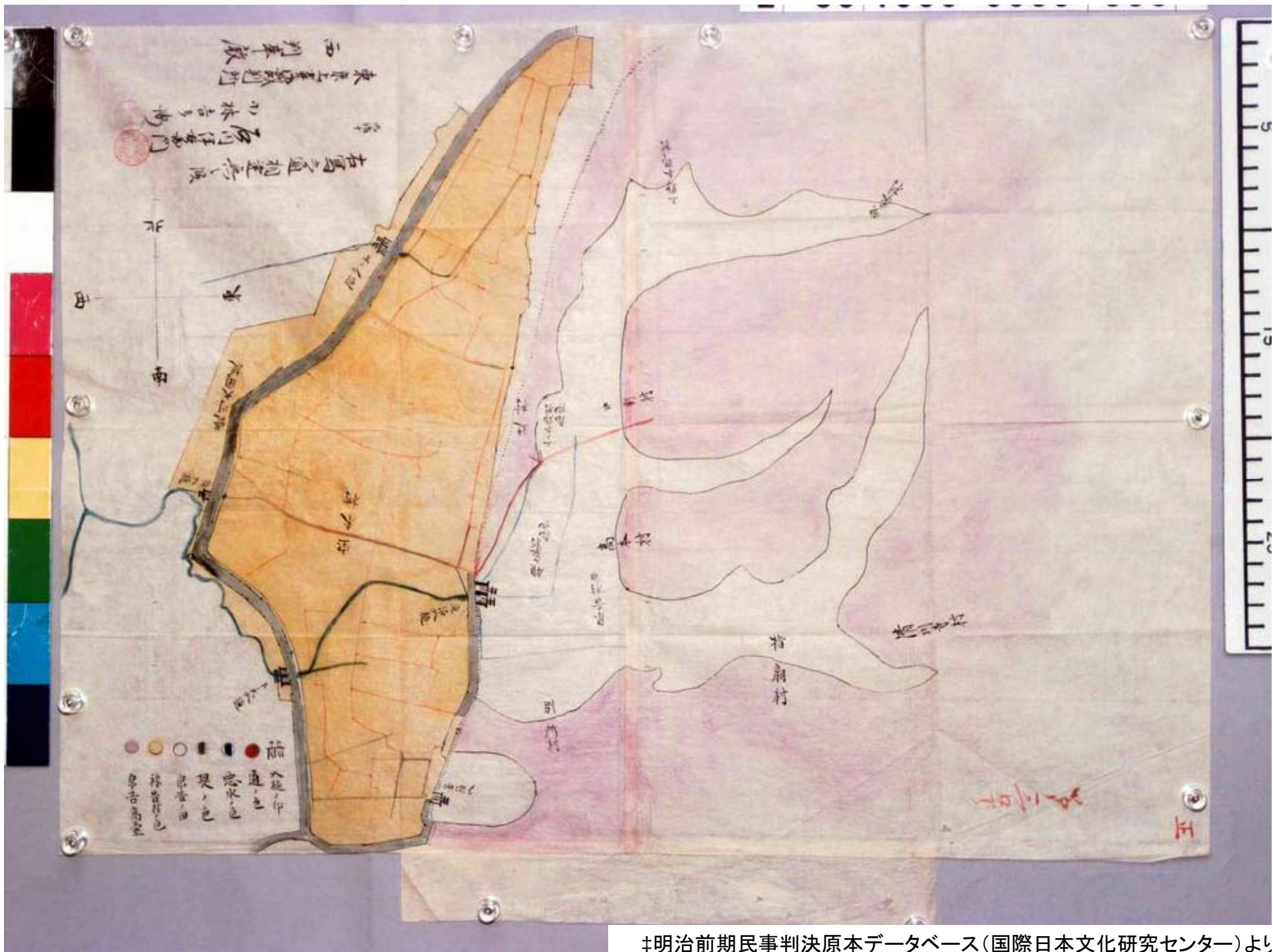


‡地図データベース(国際日本文化研究センター)より1914年「大宮」





※福島県鮫川村のHPより



【地方凡例録】

一 悪水落口代之事

是は悪水落口筋を立るとき、他村の地面を掘通さずしては叶ハざるときは、高内の田畑は勿論、高外の地所たりとも、村方相對の上、地子年貢を遣ハして掘通すなり、用悪水の違ひ迄にて、井料米・水代米同様なり、若し数箇村にかゝる大造の悪水落等にて、多分の潰れ地等ある節は、官又ハ地頭へ相願ひ、敷地年貢引方下さるゝもあるなり

【享保11年10月評定所定書】

大目付え

悪水不滞、用水引渡す儀、在方肝要之儀二候処、悪水川・用水堀・小溝等迄堀さらへ不仕、剩双方よりせはめ、或竹木はへ出、水道差支候所々有之由相聞候、当年は此節、自今は年々三四月之内隣郷申合、村限堀さらへ、竹木伐払、水草ハ根共掘取、又は度々刈捨可申候、土砂埋多、堀幅せはめ候所々は、二三年之内段々以前之通掘立可申候

右之通申付候上、若堀浚不仕村方有之、隣村え相障候ハ、堀浚仕候村方より、其旨可訴出候、吟味之上急度可申付候

附、水上之村悪水堀有之候処、水下村々悪水堀埋潰し候所々も有之由二候、以前之通掘立勿論、悪水堀無之处は可訴出候

右之通、関東筋御料は御代官、私領は領主・地頭并寺社方支配限り、在々え入念可被申付候、以上

十月

【天保2年12月触書】

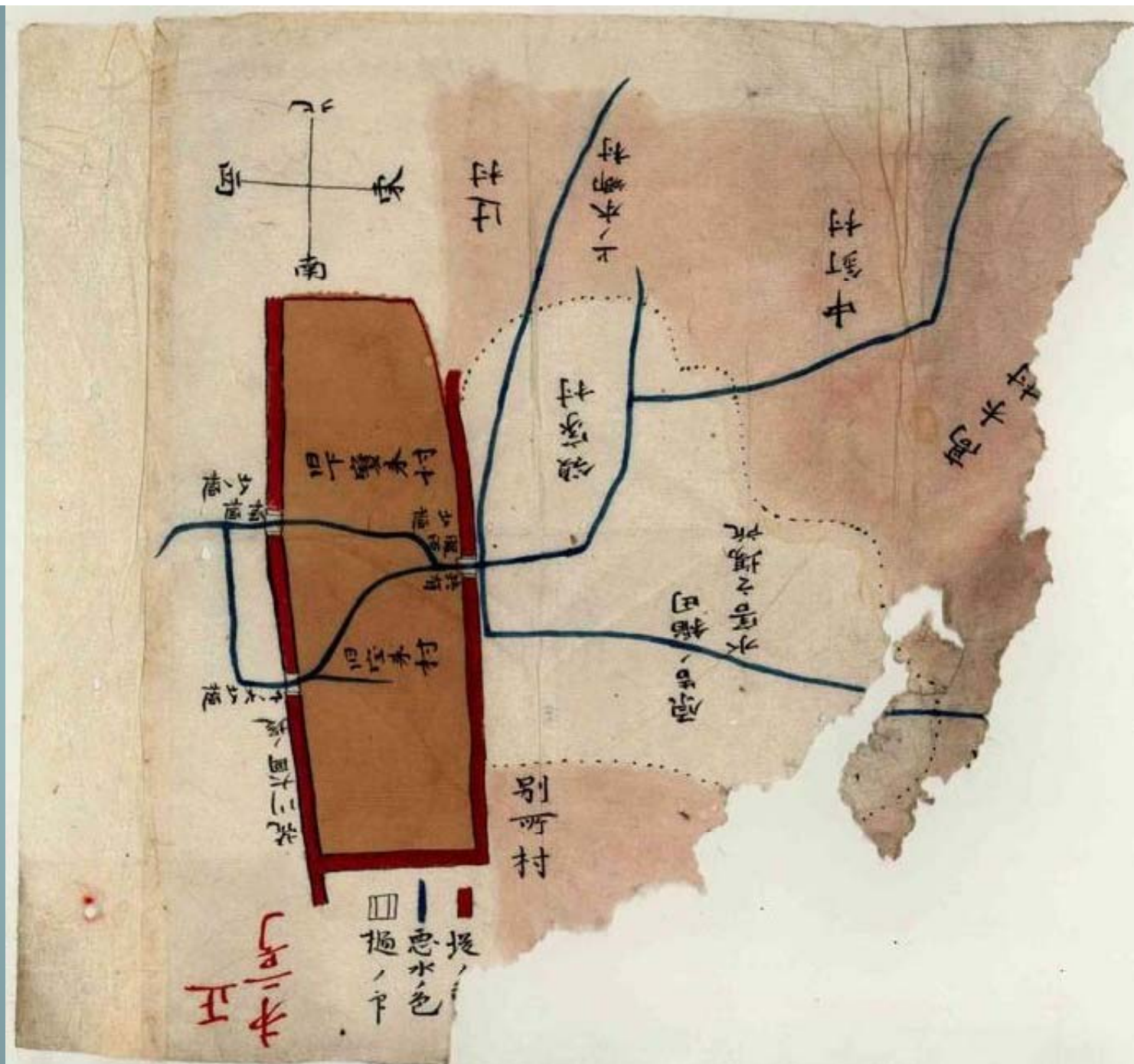
（享保11年10月定書を引用）

右之通、享保十一年相触候処、用水路浚不行届、連々押埋、竹木はへ出、堀幅或橋々を狭め、水道差支候所々有之由相聞候間、堀幅橋々狭め候所は以前之通掘あけ、年々三四月之内無油断組合限申合、堀浚、竹木伐払、水草は根共掘取、又は度々刈取可申候、堀浚等閑置、差障之村方より訴候ハ、吟味之上急度可申付候

右之通、関東筋御料は御代官、私領は領主・地頭、寺社領は支配限、在々え可被申付候

卯十二月

右之通、可被相触候



【明治3年7月20日大蔵省達第474】

諸府藩県支配・御預所之内潰地代米永之儀、
是迄依旧慣相渡候処、自今被廃、都テ高内引ニ
可取計候、此段相達候事

【明治3年11月9日太政官布告第808】

諸藩支配所之内潰地代米永之儀、是迄依旧慣
相渡候処、自今被止候条、高内引ニ可致事

但地主共ヘハ相当之御手当可被下、尤他村之
地所ヲ借地イタシ、下方相対ヲ以地代差出来候
分ハ、従前之通可取計事

【明治4年3月6日民部省達第6】(「府藩県」宛)

府藩県支配地ノ内潰地代米渡被廢候儀ハ、去年七月並二十一月御布告ノ通ニ候処、区々ニ取計候向モ有之候ニ付、猶又左ノ通相達候事

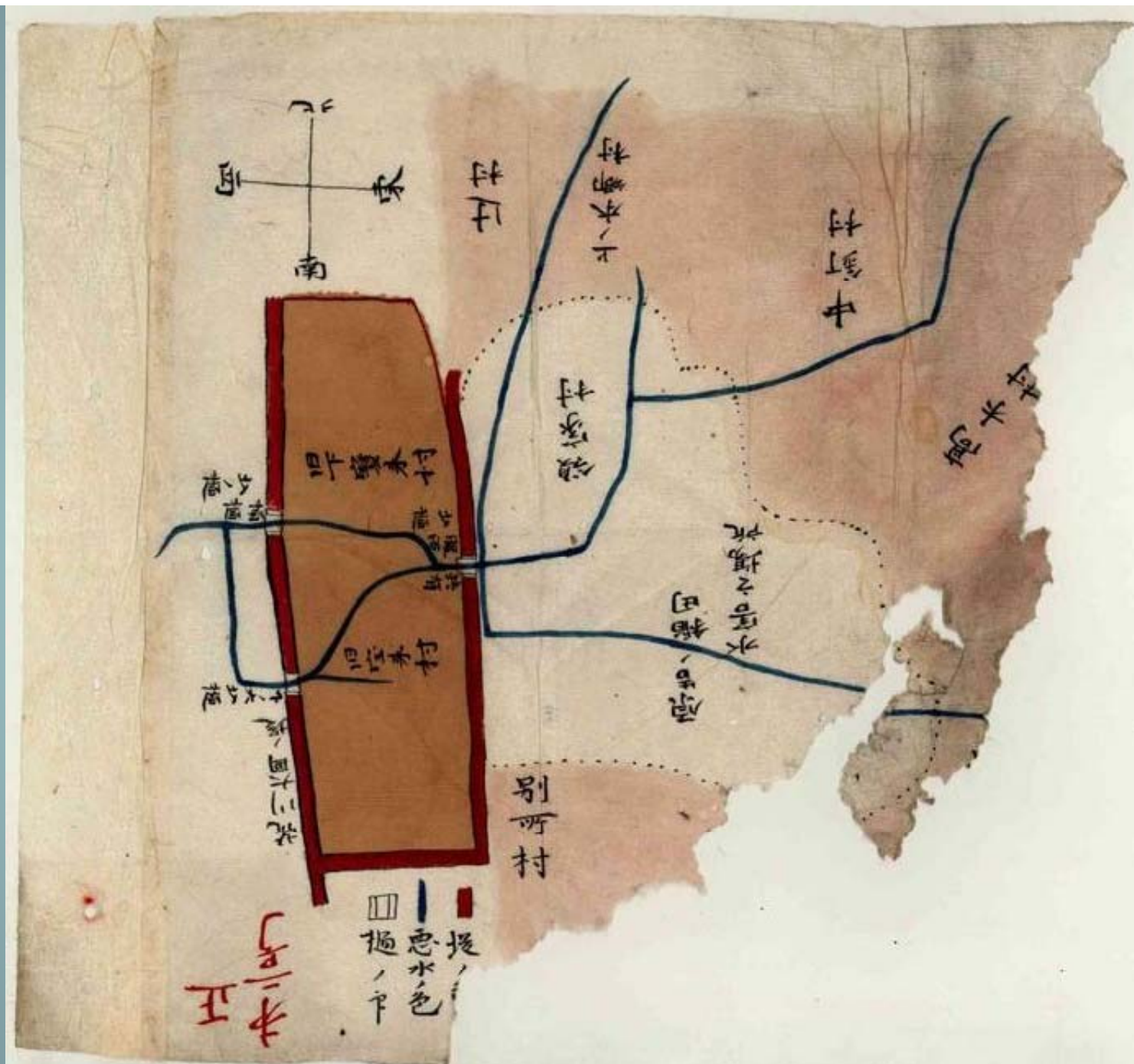
一 潰地代米旧幕ヨリ渡来、又ハ地頭ヨリ相渡来候分、高内引相成候上ハ、従前ノ代米ハ被相廢、作徳ノ儀ハ猶旧約詮議ノ上、地主共ヘ相当ノ御手当被下候事

但相当ノ御手当被下候儀ハ、年々作徳ノ平均ヲ以相渡候歟、又ハ御買上ノ積ヲ以一時ニ相当ノ価相渡候共、実地検査ノ上、見込可申立事

一 村方相對示談ニテ他村ノ地所借受、用悪水路始蔵敷等ニ付潰地ノ分、租税作徳米並ニ高掛物等、都テ借請候村方ヨリ地主ヘ相渡来候分、御布告ニ基キ、従前ノ通可相計事

一 府藩県管轄地ノ内、他支配ヘ貸渡潰地ニ致シ、従前引付ヲ以代米等渡来候分モ、其支配毎高内引ニ可取計、尤地主作徳米等、旧幕並ニ地頭ヨリ渡来候分ハ、其支配毎庁入費ノ内ヲ以手当可致事

一 高内引ニテ貢米免除ニ付テハ、高掛物モ一切免除可申付候事









Google Earthより